

## 伊賀警察署協議会議事録

令和7年度第2回伊賀警察署協議会	
日 時 場 所	令和7年10月2日（木）午後3時～午後4時50分 伊賀警察署3階会議室
出 席 者	<p>1 警察署協議会委員 5名 川口恵美子委員、神戸宏規委員、竹島尚子委員、 西岡崇委員、堀川紘一郎委員</p> <p>2 警察署 9名 署長、副署長、会計課長、警務官、生活安全課長、 地域課企画指導係長、刑事課捜査庶務係長、交通課長、 警備課長</p>
傍聴者数	なし
公開・非公開の別	公開
議 事 概 要	
<p>1 視察</p> <p>(1) 能登半島地震における災害警備の実施状況及び災害に向けた救出救助訓練</p> <p>(2) 中学生及び高校生に対する交通安全教育の実施状況</p> <p>2 協議内容</p> <p>(1) 警察署協議会委員からの事前質問に対する回答</p> <p>ア 訪問買取り業者の実態について</p> <p>＜委員＞ 訪問買取り業者がタイヤを買い取った後、ホイールだけを抜き取って、タイヤを不法投棄していると聞いたことがある。そのようなタイヤの不法投棄に関する認知状況はいかがか。</p> <p>【生活安全課長】 本年、業者によりタイヤが不法投棄された事例の認知はないが、タイヤが空き地に捨てられている旨の相談を1件認知している。状況的に業者によるものではなく、一般の方によるものと思われる。参考として、タイヤの不法投棄に関する相談件数は、平成30年及び令和4年にそれぞれ1件把握している。</p> <p>＜委員＞ 古タイヤの買取り業に関する許可状況はいかがか。</p> <p>【生活安全課長】 古物商等を営もうとする者は、都道府県公安委員会から古物商の許可を取得する必要がある、違反すれば、罰則もある。かつ、事業者が自宅を訪問して、古タイヤ等の物品の購入を行う行為は訪問販売に該当し、クーリング・オフ等を規定する特定商取引に関する法律の対象となる。不審な訪問販売にあったときは、生活安全課へ一度相談していただきたい。</p> <p>イ 自動車運転時のハンズフリー機能使用について</p> <p>＜委員＞ 自動車運転時におけるハンズフリー機能の使用は違反となるのか。</p>	

【交通課長】 道路交通法上、携帯電話を手に持ちながらの通話や画面を見ながらの運転は禁止されている。ハンズフリー通話の使用は直接的な違反にはならないが、注意力が散漫になり、運転に集中できなくなる可能性がある。それが元で危険な状況や交通事故が起きると、安全運転義務違反として罰則の対象になる可能性がある。

ウ 違法改造車の取締りについて

＜委員＞ 違法改造車の取締り状況はいかがか。

【交通課長】 自動車は、自動車の安全環境基準である保安基準に合わなければ公道を走行してはならないとされている。タイヤ及びホイールの車体外へのはみ出し等は、法律上禁じられている。現場で各種法令に基づき検挙するほか、寄せられた情報から所有者、使用者を割り出すなどして検挙することもある。参考として、令和6年には整備不良車両を2件検挙している。

エ 外国免許切替制度（以下、「外免切替」という。）の実施状況について

＜委員＞ 最低限、日本語が理解できる方を対象としてほしいところであるが、伊賀市の実施状況はいかがか。

【交通課長】 令和7年10月1日から、手続の際の住所確認を必須とし、知識・技能の確認等を厳格化した改正法が施行されている。海外では免許取得時に一定の居住や在留が求められるが、これまで日本では当該要件は必要なく、観光客が免許を取得できる状況だった。また、基本的なルールを理解せずに外免切替をした外国人による交通事故や重大事故が全国的に発生したことなどを背景に厳格化する運びとなった。この厳格化により、日本の基本的な交通ルールを十分に理解し、安全に運転できる外国人を対象に、日本の運転免許に切替えがされるようになったと理解してほしい。

居住地別の外免切替実施は把握していないが、運転免許センターによると、令和7年8月末時点、三重県内での国籍別外免切替の申請者数についてはベトナム、スリランカ、中国、ブラジルの順で多くなっている。伊賀市には多数の外国人が居住しているが、免許を保有しているのは2,813人となっており、国籍としてはブラジル、ベトナム、ペルーの順で多くなっている。

オ 訪問販売と個人情報の取扱いについて

＜委員＞ 太陽光発電の営業者等に家を特定されるのはなぜか。

【生活安全課長】 具体的にどのような情報を持って営業者が訪問したかは分からないが、いわゆる名簿屋が存在しており、個人情報を取得していることは承知している。アンケートや懸賞に回答することなどで、情報が名簿として流れることがあるため、それらを利用して訪ねてきていることもある。「訪問販売」に当たるので、契約するとなれば書面を交付する必要がある、していなければ違反となる。

カ 企業に対する特殊詐欺対策の啓発活動実施状況

＜委員＞ 特殊詐欺が増加しているが、それを防ぐことのできる立場の方への啓発状況はいかがか。

【生活安全課長】 金融機関に対する啓発活動については、令和5年に2回、令和6年に4回実施している。金融機関には、

特殊詐欺の被害に遭っていきそうな方に入金を止めてもらうため、確認用のチェックシートを渡している。チェックシートを見せることで時間を稼ぎ、警察が到着し説得ができる時間ができるようにしている。コンビニにも、特殊詐欺被害に遭っていきそうな人の特徴や、その際の通報先等を書いたカードを渡し、電子マネーを購入するよう指示されていないかなど、声掛けをしてもらえるよう対策をしている。伊賀ポリスターズの動画をＹｏｕＴｕｂｅの三重県警察公式チャンネルに投稿しているほか、被害対策ＤＶＤを介護老人ホームで流すなどの被害防止対策も行っている。また、金融機関に対して定期的に防犯講演を行っている。

キ 交通指導について

＜委員＞ 花火大会やお祭りの際、道路を通行止めにする前にもかかわらず、業者等が道路を横断するなど危険行為があるが、主催者や露天商への指導が必要ではないか。

【交通課長】 イベント時の交通規制や道路使用については、商工会議所等の主催者と、その都度協議した上で実施をしている。また、主催者と露天商には、許可を取る際、危険防止の措置等について指導を行っている。今後も各種イベントが実施される際は連携して、時間を厳格に制限するなど、適宜必要な指導措置を執っていきたいと考えている。

＜委員＞ 府中地区における重点的な交通指導の強化をお願いしたい。

【交通課長】 伊賀警察署においては、学校や保育園の登下校時間帯を中心に、パトロールや交通街頭監視等の見守り活動を実施している。府中地区においても、通学路での見守り活動を実施しているところであるが、更に強化をして参りたいと考えている。また、小中学校、保育園とも連携し、見守り活動のほか、学校等において交通安全講話の実施等、交通安全教育も実施していく。府中地区に限らず、交通指導取締りをはじめとした交通事故防止に向けた活動を三重県警察の公式Ｙに投稿している。

ク 特殊詐欺・若年層のＳＮＳトラブル等防止するための学校・地域との連携について

＜委員＞ 防犯講話、出前講座等の防止活動の実施状況はいかがか。

【生活安全課長】 地域住民や防犯ボランティアの方を対象として実施しており、令和５年に４５回、令和６年に５７回、令和７年９月末現在で３９回実施している。伊賀警察署では、独自の取組として生活安全課員による「劇団伊賀ポリスターズ」を結成し、特殊詐欺等についての寸劇をＹｏｕＴｕｂｅに投稿している。

＜委員＞ 若年層のＳＮＳトラブル、学校と連携した非行防止教室の実施状況はいかがか。

【生活安全課長】 小学生、中学生、高校生を対象に非行防止教室を実施しており、令和５年に１１回、令和６年に２０回、令和７年９月末現在で１１回実施した。

最近、自分の裸の写真を撮って送付したことによるトラブルの相談もある。相談は中学生のものもあれば、高校生のものもあったが、１８歳未満の者が、自分で撮った写真を自分でＳＮＳに上げて、それは児童ポルノに該当し、事

件になる。いずれにしろ、児童の裸の写真を送付することやSNSに上げるとはトラブルを生じさせ、誘拐や監禁といった事件も起こりうる。このようなことを防ぐため、ネットの危険性を啓発している。児童自身もネットの危険性について理解する必要がある。

(2) 意見交換・質疑

＜委員＞ 近頃、メガソーラー反対等の電子署名活動をよく見掛ける。名前、住所、メールアドレス等を入力する欄があるが、回答しても良いのか安全性が気になる。私も、協力を頼まれていて参加したいものがあるが、回答しても良いものか分からない。怪しいものの見分け方はあるのか。

【生活安全課長】 電子署名の悪用に関する事案は、今のところ把握していない。

【署長】 その電子署名は個人のメールアドレス宛てに送付されてくるのか。

＜委員＞ インスタグラムやT i k T o kで募集されている。今回の案件は、直接会ったことのない知人から依頼されたものである。

【副署長】 アンケートの形で個人情報抜き取られ、アカウントを乗っ取られたりすることもある。知人からの依頼でも、アカウントを乗っ取られているなど、本人ではない可能性もあるので、個人情報の入力、取扱いには十分気を付けてほしい。

3 伊賀警察署速度取締り指針の見直しについて

4 次回開催日時・協議事項について

5 警察署長謝辞

備 考	報道機関 1 社 1 名
-----	--------------